

各教科の傾向と今後の改善策

☆児童・生徒の学力向上を図るための調査や1学期の学習の様子を基に、全体的にとらえた五小の子どもたちの学習の実態を分析して、今後の改善策を考えました。

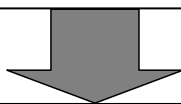
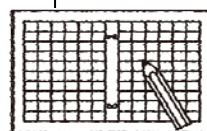
国語

《身に付いている力》

- ◇読み聞かせや、読書の好きな子がたくさんいます。
- ◇漢字練習や音読に積極的に取り組んでいる子がいます。
- ◇文章の組み立てを意識しながら書こうとする子が多いです。
- ◇場面の様子や登場人物の心情を理解して読むなど、文章の大体の内容を読み取ることはおおむねできています。

《課題になること》

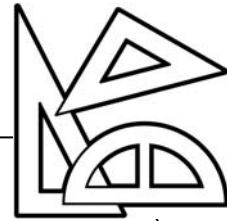
- ◆筋道を立てて話したり、根拠をあげて話したりするのが苦手な子もいます。
- ◆文章の大体は読み取れますが、細かい内容の読み取りが苦手な子もいます。
- ◆漢字練習をよく取り組みますが、正しく覚え、適切に活用できる力がまだ定着していない子もいます。
- ◆主語と述語や、修飾語と被修飾語などの関係がまだよく理解できていない子もいます。



【授業の改善策】

- 1 スピーチや感想発表等、一人一人の発表の場を増やして、聞く力・話す力を付けていくようにします。
- 2 文章の内容を読み取る力を高めるために、要点をまとめたり感想を書いたりする活動を取り入れるようにします。
- 3 文章を書く力を付けるために、日記や感想書き等の短作文を日常的に取り組むようにします。
- 4 新出漢字を丁寧に指導して正しい字形で書けるようにするとともに、言葉のきまりを理解させ、短文作りを通して活用できるようにします。

算 数

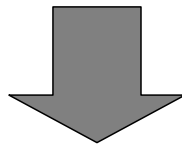


《身に付いている力》

- ◇全体的に、積極的に課題を解決しようとする意欲が見られます。
- ◇数量関係は、ほとんどの子が理解できています。
- ◇計算力は個人差がありますが、ほとんどの子が正確に計算できる力を身に付けています。

《課題になること》

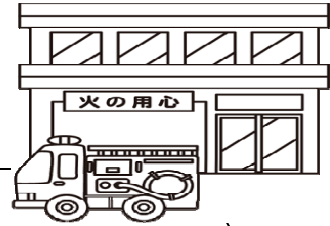
- ◆計算問題のように、答えが1つしかないようなときにはよく手が挙がりませんが、根拠や考え方を説明するような場面では、発言が限られる傾向があります。
- ◆文章問題では、立式したり図や表に表したりすることが苦手な子もいます。
- ◆様々な角度から考えることや、論理的に考えることを面倒に思ったり苦手としたりする子がいます。
- ◆計算の仕方を工夫したり、計算の意味を理解したりする力には個人差があります。
- ◆時計や物差しが目盛りを正確に読むことや、定規・分度器・コンパス等の使い方に不慣れな子もいます。



【授業の改善策】

- 1 全体での発表の前に、グループ活動を取り入れたり考えを書かせたりして、自分の意見に自信をもたせていきます。
- 2 常に数学的な考え方を意識させ、根拠を示して説明する表現活動を充実させていきます。
- 3 ヒントカード等を活用し、個に応じた指導を心掛けていきます。
- 4 具体物を使った活動を多く取り入れ、数や量についての理解を深めていくようにします。

社 会

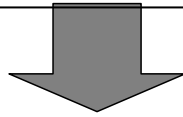


《身に付いている力》

- ◇調べたことや体験してきたことを、カードや新聞に分かりやすくまとめる力が付いてきていて、多くの子が意欲的に取り組んでいます。
- ◇体験的な活動を通じた学習では、考え方が多様になったり、深まったりしています。

《課題になること》

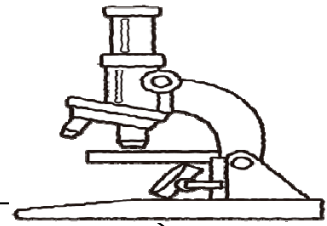
- ◆様々な資料や自分もっている知識から、学習課題を自分で設定することが苦手な子もいます。
- ◆基本的な資料等を読み取る力や活用する力は個人差があります。



【授業の改善策】

- 1 自分で学習課題を作ることができるように、具体的事象を効果的に取り入れたり、身近な教材を提示したりしていきます。
- 2 資料の読み取り方・活用の仕方を、くり返し指導するとともに、発問の仕方を工夫していきます。
- 3 調べたことについての自分の考えを、文章で表現したり発表したりする機会を設け、子ども相互の学び合いを充実させていきます。

理 科

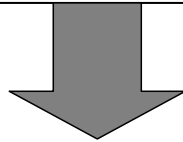


《身に付いている力》

- ◇科学的事象や新しい事象への興味・関心が強く、意欲的に取り組む子がたくさんいます。
- ◇実験や観察に意欲的に取り組む子が多くいます。

《課題になること》

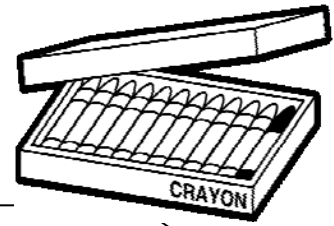
- ◆実験や観察は楽しんで取り組みますが、なぜそうなるのか、どうしたらそうなるのか、と考察することが苦手な子もいます。
- ◆結果や分かったことを分かりやすく表現する力は、個人差があります。



【授業の改善策】

- 1 学年の発達段階に応じたノート指導を通し、まとめたり説明したりする力を付けていきます。
- 2 実験や観察では、観点やポイントを明確にして、そこから課題を見付けられるようにしていきます。
- 3 観察や実験の結果を、関連付けたり、規則性を見い出したりする力を伸ばすための指導の充実を図ります。
- 4 自分の考えを、文章で表現したり発表したりする機会を設け、子ども相互の学び合いを充実させていきます。

生 活

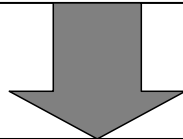


《身に付いている力》

- ◇栽培したり観察したりすることには意欲的に取り組むことができます。
- ◇他学年、幼稚園・保育園児との異年齢交流は活発に行っています。

《課題になること》

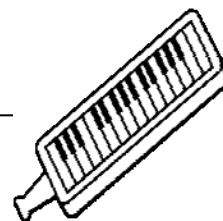
- ◆身近な人々や自然とかかわって、気付いたことを子どもたち同士で共有し合うことが少ないです。
- ◆本当の意味での自然と触れ合うことは少なく、特に動物とのかかわりはほとんどありません。
- ◆集団や社会の一員としての自分の役割や、行動の仕方について考える活動が不足しています。



【授業の改善策】

- 1 公園に行って遊ぶ機会や、自然に目を向ける機会を増やします。
- 2 活動を通して気付いたことを発表し合い、学んだことを共有し合う活動を増やします。
- 3 家庭と連携して、家族の中での役割について考え、実際に仕事をする活動を行います。

音 楽

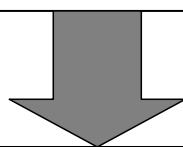


《身に付いている力》

- ◇音楽に関心を持ち、意欲的に表現しようとする児童が多く見られます。
- ◇互いに聴き合い、良い点を認め合う学習態度が育っています。

《課題になること》

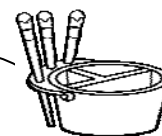
- ◆のびのびと歌ったり楽器の演奏を楽しんだりしていますが、自分の思いや意図をもって表現する力には個人差があります。
- ◆高学年になると歌唱の学習で消極的になってしまう子もいます。



【授業の改善策】

- 1 感じたことや思ったことを発言したり、文章に書いたりする機会を増やし、音楽表現に結び付けていきます。
- 2 学習形態を工夫し、学び合う活動を通して互いを認め合う態度を育てていきます。
- 3 ひとりひとりの声に合った助言をし、自信を持てるよう支援していきます。

図 工

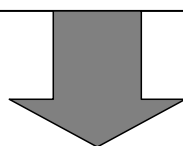


《身に付いている力》

- ◇「描く」「つくる」ことに楽しくとりくみ、自分なりに工夫し表現しようとする子が多数見られます。
- ◇友だちの作品の、いい所を見つけ感じ取り、認め合う姿勢が育っています。

《課題になること》

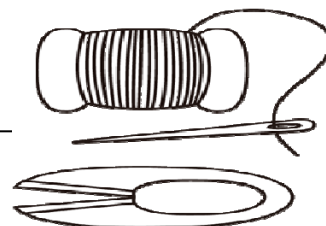
- ◆なかなか自信が持てず、とりかかりに時間がかかったり、活動に消極的になってしまう子も見られます。
- ◆生活経験が不足がちで、手先がうまく使えず、道具の扱いが苦手な子がいます。



【授業の改善策】

- 1 学年の目標に照らし合わせ、作り出す喜びを味わえるような題材をさらに工夫して提示していきます。
- 2 ひとり一人に肯定的な言葉かけをしながら、子どもの活動を見とりアドバイスし、自分の表現に自信が持てるように支援していきます。
- 3 工作道具の扱い方の基礎基本を繰り返し指導し、安全面に気を配りながら、使用する場面を多くしていきます。

家 庭

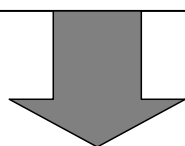


《身に付いている力》

- ◇食事や栄養に関心を持ち、興味を持って調理実習に取り組んでいます。
- ◇手縫いやミシン縫いの基礎を身に付け、生活に役立つものを楽しんで作っています。

《課題になること》

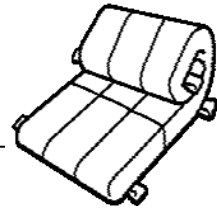
- ◆自分と家族には目を向けられているので、さらに地域とのかかわりにまで視野を広げられるとよいです。
- ◆衛生面、安全面に対する意識を確実に身につける必要があります。



【授業の改善策】

- 1 実習では、衛生面や安全面をしっかり意識します。調理をするときの服装、裁縫のときの用具の点検などを徹底します。
- 2 興味をもってすすんで課題に取り組めるように、題材を工夫して提示していきます。
- 3 裁縫での細かい作業に苦手意識を持つ子に対して、わかりやすく説明できるように、教材や資料を工夫して製作し、提示します。

体 育

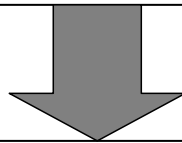


《身に付いている力》

- ◇体カテストの結果から、反復横跳びが全学年において全国平均より上回っています。50m走、20mシャトルラもおむね平均を上回っていて、運動の基本となる走力が身に付いています。
- ◇各運動領域で、学習カードを使い、個々のめあてをもたせたり、グループ練習で、作戦を意識して運動したりする力が身に付いてきています。

《課題になること》

- ◆握力、腕力が落ちて技能の達成率が低くなっています。体づくり運動や鉄棒運動で、運動の基本的な身体機能を高める必要があります。
- ◆ゲーム、ボール運動領域で、各学年で、全体的にボールを操作する力が低く、スポーツ経験者との能力差、男女の能力差が顕著に見られます。
- ◆表現リズム遊び、表現運動では、運動会以外あまり取り組む時間がなく、活動を増やす必要があります。



【授業の改善策】

- 1 体育集会を増やし、基礎体力の向上、健康の保持増進を図り、日頃から体を動かすことの楽しさを体感できる機会を設けます。
- 2 体の調整力、柔軟性、体力の向上に課題が見られることから、体づくり運動の適切な時数を確保し、器械・遊具を使っての遊びや器械運動を、低、中、高学年で系統性をもって指導します。
- 3 児童の運動能力の差が感じられますが、リーダーとしての役割を与え、教え合うことで、全体の能力を高めることができます。1時間のめあてを明確にし、全員が課題を達成できるように指導していきます。
- 4 表現リズム遊び、表現活動に意欲的に取り組む児童が多いのでさらに、多様な題材や踊りを計画的に取り入れ、グループ、集団で表現する楽しさを味わわせるようにします。
- 5 保健では、中学年、高学年ともに、学習活動に応じて養護教諭、学校栄養士等の専門性を有する教職員の参加、協力を推進します。